天と地の結び方

神屡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
天と地の結び方

【Ｎコード】
Ｎ５２３７Ｈ

【作者名】
神屡

【あらすじ】
高校１年生の川崎天はある先輩が気になってしょうがない！そのこと友達に恋と言われ、混乱する。はたして本当に恋なのか！？それを意識するのはいつなのか！？今、ＢＬ（？）な話がはじまる！

プロローグ

「……は？」
「だから、それはお前が大地先輩のこと好きだからだろ」
とある図書館で話している学生２人。そのうちの一人、川崎　天は高校１年生。趣味は読書で普通の高校生。だというのに！
「お前は妙なことを言いますねぇ、俺が男を好きだと？八ッ八ッ八ッ……なわけあるかぁ！俺は普通に男だ！バカなこと言うなよ！」
「だって気になるんだろ？」
「人間としてだよ！」
ついでに、さっきから話しているのは、山野　空、俺と同い年。
「いやだから、それが好きってことなん――」
聞いていられず、空の顎を殴る。
「お前はアホだっ　アホアホアホォ！」
その後、天は早々と帰り支度をし、さっさと帰っていった。
「ちょ、ちょっとまてよ！天！」
だが、天の姿はもうない。

「はぁ……」
全速力で家の前まできたぞ……。
つーか、なんだよなんだよなんだよ！俺が、なんで…！？
「俺って……　ホモ！？」

プロローグ（後書き）

始まりの話ですね。恋なんでしょうか？（笑）大地先輩が次出ると思うので、どんなキャラだか、とか。そんな感じで色々想像していたたけたら嬉しいです。

第一話：意識

「よぉ、またほ……」
バキッ、という音が響く。
「なんだ？空、お前まさかほ、ほほほほほほホモって言おうとしたか？」
「殴んなくてもいいだろうが！つか、ホモなんて言って…」
ボコッ、という鈍い音が響く。
「お前、なんなんだ？あれか？いじめか？」
「また殴ったー！っく……」
「ここは学校の図書室だ　静かにしろ！」
なんでこんな機嫌が悪いって？それはこの無様な友達（仮）のせいだ。

＜恋＞

なわけないなわけない！と思ってもどうしても意識してしまう。
「ほ」と聞いただけで…　まぁさっきの会話な感じ。
（空はきっと『よぉ、また本読んでるのか？』と聞きたかったんだろう。毎度毎度言われるしな。）
そして、河崎（かわさき）　大地（だいち）という先輩を、意識するようになった。つまり、前は意識していなかったわけだ！
だが！天の行動はあからさまに恋をいている雰囲気なのだった！
（まぁ？確かに？毎回図書室にいる先輩を観察したり？）←あ
（先輩が読んだ本は必ず読むし？）←あぁ・・
（先輩の情報とか先輩のやっている部活の友達に先輩情報を聞くけど？）←あぁあぁぁ・・・
「恋だろ！」
「なんだよ急に！」

「お前、さっきから大地先輩のことずっと見てたぞ？」
――――！？
「そ…、空、俺って……」
「嘘だ！」
ドカバキグシャというひどい音が響く。
「っう……でもでも、そういうことするなら」
「なわけない！バーカ！」
空は思った。天のほうが――なんじゃないかと！
「つーか、どんなふうに気になるんだ？」
「え？どんなふうにって、全部知りたい感じっつーか、仲良くなりたいっつーか」
また空は思った。そうか、仲良くなりたいから情報を……。
「じゃあ、エピソードを教えてくれないか？えっと、どこで出会ったとかをよぉ」
「聞きたいのか！？そうか、いいぞ！」
またまた空は思った。嬉しいんだぁ……、可愛いやつだ。

「じゃあ、話すぞ？」

第二話：気持ち

――それは、俺がまだ中学生のとき。

「うぅ……、緊張する」

天の中学校には『作文コンクール』と似たようなものがあって、全クラスの代表が体育館で自分の作文を読み、代表以外の生徒がどの作文がよかったかを投票し、そして、最優秀賞となった人はもちろん表彰状がもらえ＋（プラス）なんと、そのクラスは1日授業はなしで遊んでもいい、という特権が与えられる。ついでに、作文は何を書いても自由だ。

皆目（みんな）がギラギラしているが、天は違った。

このコンクールは普通、自分が立候補をしてやるものなのだが、「天は作文がうまいから」というクラスのみんなの推（お）しで無理矢理なってしまったのだった。

「しかも、中学3年生の後か……、腹痛い……」

実際、天は作文の才能があるが最優秀賞なんてどうでもよかった。

（勉強他のクラスのやつらに先に教わられてる教科ができちゃうじゃん）

マジメであった。

でも、本気で頑張らないとクラスの人たちに怨まれてしまうし……。

あー、面倒だし緊張するしなんかもういやだし。

「大丈夫か？」

「えっ……？」

声をかけてきたのは、天の前の先輩だった。

名前は河崎（かわさき）　大地（だいち）…と、名札に書いてある。

「緊張するよな」

ぜんぜん緊張してそうじゃない顔で大地は言う。

「き、緊張しますね」

だいぶ緊張している顔で天は言う。それと同時に、天はドキドキしていた。
（う……嬉しい！先輩が！3年の先輩が！）
「緊張しているなら深呼吸をしよう…、ん？どうした顔赤いぞ」
「な…なんでもないです！」
（なんなんだ、この人が気になる…。優しいし、興味を持ったというか……）
「一緒に頑張ろうな」
「――――！」
天は心臓が壊れそうなほどドキドキしていた！
「じゃあ、順番だから　じゃあな」
「さようなら……」
天は人生で初めての気持ちを持った気がした。
その日以来、天は必要以上に大地先輩の事を調べ、行く高校の情報をゲットし、頑張って勉強をして今に至るわけだ。

「――ってわけ！」
「お前軽くわかりにくいな」
「説明ニガテなんだよ！」
「つーか絶対それ……、気持ちってあれじゃんか」
「尊敬じゃね？」
「いや、ドキドキって言ってんじゃ……ひでっ！」
空の頬をつねる。恋なんてあるわけないだろ？と目で訴えている。
「ついでに、コンクールどうなったんだよ！」
そういえば空とは高校で初めて会ったのか……。
「あぁ、俺緊張と意味の分からないドキドキが重なって、文章は完璧だったんだろうけど呂律が回んなくて最悪な結果になり、俺はぜんぜん無理だったんだけどよ　先輩は喋る声の大きさ・速度・文章の良さがだいぶよくてな、最優秀賞とってた」
「すげぇな…先輩、お前はドンマイだなって……ん？」

「なんだよ？空」
「お前、恋愛したことある？」
「ないな」
きっぱりと言った。
「だからなんじゃね？」
「はぁ！？そういう意味だよ！」
「だから……、恋愛小説読めよ！」
「あー、そういえば読んだことないかもな」
空の考えは当たっていた。
天は恋をしたことがない。つまり、恋愛が分からない。
ということは、恋心に気づいていない。いや、気づけないのだ。
「じゃあ、恋関係の読むか」
「ロミオとジュリエットとかか？もっと分かりやすいの読めよ、ほら、こんなのはどうだ？」
そう言って空が渡してきたのはタイトルからしてあからさまに恋愛のものだった。
「じゃあ、1時間待ってろ」
「お前読むの早いよな、それけっこう厚いぞ」
「集中するから話すな」
そういって天は早々と、そして正確に読んでいた。
（こいつ、相当好きなんだな）
空の思っていることは間違っていない。でも、空はそれがなぜか気に食わなかった。
なぜだかは、空は知らない。わからない。知りたくもないのかもしれない。
でも、気に食わない。でも、気づかせてあげたい。
協力と反発する心が空にはあった。
天が口を開いた。
「恋……」
顔が赤くなっている。やっと、理解したらしい。

第三話：決意

「そ…空！これ…、俺みたいな感じので、えっと、恋なのか？」
そうとうあわてている。
「わかったのか？天……」
空は気づいていないだろう。自分顔が引きつっていることに。
「たぶん……、俺『一目惚れ』に近いやつだったんだな」
「たぶんな……」
そうか、これ、恋ってやつだったのか。
この本によると……告白ってやつをするのか、好きな人には。
大きな声で、確実に伝わるように…か。
好きなんだから必ずやらなきゃだめなのか……↑そうなのかよし！
「俺、告白す……」
「アホか！」
「は？なんでだよ？しなきゃだめなんだろ？」
「まだ先だろ！ぜんぜん次のステップ入ってないのになにやろうとしてるんだよ！」
「告白だよ」
「他人に告白されて嬉しいか？先輩と喋ったことがあったとしても、友達でもなんでもない所詮ただの他人だろ？」
だって……。とでもいってそうな目が、空を見る。
空はこの目に弱い。
「う…、でも！仲良くなってからじゃないと、ダメなんじゃないか……？」
「でも、どうやってだよ……、告白でもすれば関係が…。」
「友達からだろ！」
でも、相手は2つ上の先輩。友達になんてなれるのだろうか。
「つーか、そんなに先輩がいいのか？」

「俺の心に聞けよ！」
ていうか、なんでそんな事聞くんだ？別に誰を好きになってもいいだろ……。
いや、空は友達として言っているのかもしれない。男を好きになって幸せになるなんて人見たことないからな。

「ブッサイクは黙ってなさいよぉ！」

図書館全体にその声は響いた。
（誰が誰に言ってるんだ！？）
女の子の喧嘩だろう、そう思っていたが違った。
誰が言ったのかを皆の視線を追い、見てみたら……。
――――！？
先輩の……、妹！？
情報でいるということは聞いたことがあったが、見たことがないため確実とは言えないが。
（でも、先輩の隣にいるって事は…、だよな？）
「ていうかさぁ、あんたの顔……　何？最悪な顔ね　そんなんで告白できると思ってんの？ていうか！お兄様はシャツの出てる子は嫌いなのよぉ！それに……」
「お前もだろ」
先輩の妹の主張を途中で止めたのは先輩の声だ。
どうやら、妹は先輩（あに）に告白しに来た女子に自分の主張を言っているらしい。
「べっつにぃ？お兄様とつきあいたいわけじゃぁないしぃ？」
「そうかそうか、俺はお前のような心の腐った妹とつるむ気はない」
「なっ……！？」
確かにそうだ。
先輩は成績優秀・スポーツ万能・ルックス最高・モッテモテという完璧な男だが、妹はルックスがいいが中身がダメなのであった。

（やっぱ先輩カッコイイ……、つか、シャツしまわないと；）
「好きなんです！付き合ってください！」
天がシャツをしまっている間、女子が先輩に告白をした
「意味わかんないー！！」
妹が叫んでいる。でも妹の気持ちが少し天にはわかった。
『付き合っちゃったらどうしよう……』という気持ち。
「こら　雲！ごめんな？こいつのことは気にするな　でも、だめなんだ」
妹と天はきっとまた同じ気持ちだろう。
（よかった……）
兄に告白しにきた人をそんなふうに言うなんて、兄のことが大好きで仕方がないからだろうし。ブラザーコンプレックスが入ってるんだろう。
「ほーらみなさいよ！あんたみたいな…」
「怒るぞ！」
「なっ…何よ……」
どうやら、妹は兄に頭が上がらないらしい。
「ありがとうな　次はいい恋愛しろよ　応援する」
好きな人にそんなことを言われたら残酷な言葉なようだが、に残酷聞こえないのは先輩の性格がいいからだろう。それと…　カッコイイからか？
先輩に告白した女子は泣くことなく「ありがとうございまいた」と、微笑を作って去っていった。
（なにげに妹の名前がわかったな……）
河崎（かわさき）　雲（くも）というらしい。
「…はぁ！？」

第三話：決意（後書き）

きましたね。天君の告白が始まります。なにげに空の気持ちに今後注目してほしいです！

妹……　だいぶ性格が……ですね；

感想や質問やアドバイスなど、くれれば泣いて喜びますので　ぜひくださいさいませ！

あと　読んでくれてありがとうございます！（最終回ではないが；）

第四話：空の気持ち

「なんでだよぉ！」
空は怒っていた。なぜかというと、天が急に「告白をする」と言ってきたからである。
「なんでだよぉってなんでだよ！」
「急に告白なんて！お父さんは許しません！」
「母さんの次は父さんか！？てか、お前に育てられた覚えはねぇーっつーの！」
「なんでそんな必死なんだよー！」
「お前だろ！必死に告白止めようとしてんの！」
確かに空は怒っていた。というか、必死だった。
なぜかって？
（だって天のこと……俺…好きなんだぞ！？）
そう、空は天のことが好きだった。
なぜ好きになったのか？そのエピソードを空の口調で話しましょう。

――あれは入学式の時だったんだ！
中学生の頃、空は友達が2人ぐらいしかいなかった。いじめられてたわけじゃなくて、俺は人と関わるのをなぜか嫌っていたため、相性のいい人間は全然いなかったんだ。
でも、友達がほしいわけじゃない。
高校の入学式当日に、そんな俺に友達が簡単にできるわけはなかった……けど！
「ねぇ、静かな人？友達になんない？」
神だった。
「静かじゃない」
でもこういってしまったぁあぁぁあ……。
嘘は言ってないんだ。関わるのが苦手ってだけで、結構ノリがいい

というか……・
うるさいやつなんだよ……。
「へー、でもいいや　たまにはそういう人間もいいか！男に二言はない！なれ」
Sな要素が入っているそいつは……、Mな俺にはもってこいだった！！！！つーか、惚れた。↑えぇえぇえぇえ
「なるなる！なります！」
「本当だ」
＝うるさいんだな。
だが、Mには嬉しいのだよ。
っつーわけ！わかったか？（わかんねぇよな）

「とにかく！ダメダメダメだぁあぁぁ！」
「意味わかんねぇ！つーかさ、そうせフられたら悲しむからとかだろ？でも、先輩なら上手なフり方を……」
「無言になったらどーなる？それに！あの妹がいるんだぞ！」
「でも……！今ならできる気がするんだ！あの先輩の上手なフり方見たら！」
「フられたいのか！」
「関係性を持ちたい！」
「そんな簡単に……！」
「俺の考えなんだ！放っておいてくれ！」
「……っ！」
空には何も言えない。空に告白なんてできない。好きな人がいる人になんて……。
止めたいのに止めることはできない。
天は「フンッ！」と言うと、先輩のところへ走っていった。
「天……俺と一緒にいてくれよ……」
空の目が涙でにじむ。
告白できない悔しさ。好きな人に好きな人がいるという絶望感。

付き合ったらどうしようという…不安。

「河崎先輩！あのっ……俺と付き合ってください！」

天の告白をした声が聞こえた。名前で告白しなかったのは、馴れ馴れしいと思われない為なのだろうか……。

空の目から、雫が零(こぼ)れた。

第四話：空の気持ち（後書き）

空君……。ドンマイ。（ひど）
天君は積極的ですね。このあと大地はなんと言うのか！？見ものです。
感想、お待ちしております。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5237h/

天と地の結び方

2010年10月10日00時43分発行